

特集

横浜が誇る 20周年のスポーツ施設

1998年に誕生した「日産スタジアム（横浜国際総合競技場）」「横浜国際プール」
「横浜市スポーツ医学センター」では、これまでになささまざまなスポーツイベントがありました。
横浜の誇る3施設が、20年をひとつの節目として、思いをはせたいと思います。



日産スタジアム名誉場長
おぐら じゅん じ
小倉 純二

日本サッカー協会会長、FIFA理事、東アジアサッカー連盟会長を務める。
1994年からは、2002年FIFAワールドカップ日本招致委員会の事務局長。
2002年FIFAワールドカップ大会期間中、トーナメント・ダイレクターとして大会を成功に導く。
現在、日本サッカー協会最高顧問

初めて国境を越えた

FIFAルールには「ワールドカップ（以下、W杯）はその国の国境の範囲内『Within the borders』で開催する」と書いてあった。だから共催はありえない。でも共催になっちゃって。当時は、FIFAに何度も確かめたよ。

1993年秋のアジア地区最終予選（開催地カタール・ドーハ）で日本がイラクに引き分け、1994年アメリカW杯出場を逃し、一方韓国は勝利してW杯に出場する事になったことが、共催の前兆だったと思う。またこの年に、韓国はW杯の招致委員会を立ち上げ、FIFA副会長選挙では、韓国のチョン・モンジュン会長が当選して、「ここから『共催』の話が加速すること

なった。

日本と韓国の招致活動で、投票権を持つ理事へのロビー活動が盛んに行われ、どの理事も日本と韓国どちらか一方の肩を持つわけにもいかず、「両国でやったらどうか」という共催案が浮上してきた。当時のFIFA会長アベランジェ氏は、当初日本単独開催を進めていたので、ヨーロッパ選出の理事たちは、日本開催に決まれば、アベランジェ氏の権威がさらに増してしまうことを恐れていた。一方で、ヨーロッパリーグやW杯公式スポンサーに日本企業があるため、ヨーロッパ選出の理事たちにとっては、日本を切り捨てない「共催」という形が都合が良かった。最後の最後まで「単独開催しかない」と言っていたFIFA事務総長のブラッター氏が、開催

日本中が、世界中が楽しんだ

W杯のカメルーンのキャンプ地だった「大分県の中津江村」が注目されたよね。

カメルーンは、協会からの給料の支給が約束されるまで飛行機に乗らないという珍事件が起きて、日本到着が遅れた。でも、中津江村の人たちはずっと村の入口で、並んでカメルーンの旗を持って待ってくれて。その熱い思いが伝わり、キャンプ地と選手の交流が深まったね。

海外からの来訪者も親切なおもてなしに喜んでた。日産スタジアムの最寄り駅は「新横浜駅」だけど、間違えて「横浜駅」に行ってしまうサポーターに、親切に道案内をしてくれた。

国決定の前々日に「韓国は、共催の要請があれば可能性を考えると、韓国が共催を受け入れる意思を表明した。判断に困るから日本の考えを聞かせて欲しい」と日本招致委員会に連絡してきた。この時点で、もはや「日本が韓国か」ではなく、「共催を受け入れるか否か」が焦点となっていた。日本もそうだけど、韓国も本当は自国でやりたいと思っていたと思う。



日産スタジアム立体模型

01 日産スタジアム(横浜国際総合競技場)



2002 FIFAワールドカップ決勝戦™ ブラジルVSドイツ

鹿島では試合後、成田行のバスに乗り遅れてしまったサポーターを、地元の人たちが宿泊先まで送ってあげたなどの話もある。また、海外では自国のユニフォームを着て試合を観戦するが、多くの日本人が出場国のユニフォームを着て応援してくれたことに感激していた。

そして、ロシア戦の稲本のゴール。ベスト16。ありがたいと思った。みなさんも笑顔になったでしょう。

大会終了後に開催したFIFA理事会でW杯の反省をした時、理事全員から「楽しかった」「トラブルもなかった。開催できて良かった」と言われた。そこでブラッター会長が「Wonder Cup of Smiles」言ってくれて。これはありがたかったし、最高だったね。

横浜のボランティアは誇れる

日本全国をみても、W杯当時のボランティアが残って活動しているのは横浜しかない。ボランティアから「おもてなし」を受けた世界のサポーターは喜んでくれたが、ボランティア自身も「おもてなしをする」ことを喜び、笑顔をもって活動していてすばらしい。横浜のボランティアはすごいね。

心配ばかり 安らかな時はなかった

大会期間中一番怖かったのは、天気による試合の延期。日本も韓国も天気が悪いシーズン。だから通常のW杯より半月早めて、6月30日に決勝戦を開催してもらった。この事は功を奏したね。

前年のコンフェデレーションカップ準決勝の大雨。この時、試合の中断はなかったけど、直前まで雨の降り具合が分からなかったという事があった。だからW杯は、天気予報の会社と契約をして、毎日情報をもらっていた。宮城の1試合だけ朝から風が強く、「ダメかな」と思い、午前中FIFAと延期の相談をしていたけど、午後はやんでくれて良かった。

お天気以外では空席問題。チケットは売れているのに空席があった。FIFAが契約していたチケット会社の「バイロム社」が、アルゼンチンなどの通貨危機で、サポーターが買えないチケットを戻したのに再販売しなかった。

空席問題はもう1試合あった。日本がベスト16で、トルコの試合。雨が降っていたから屋根のある場所に隠れているのかと思っていただけ、試合が始まって席が空いていて、FIFAに聞いただと、観づらくて販売しない「見切



小倉名誉場長へのインタビュー風景

り席」と販売席を間違えていて。これには怒り狂ったね。しかも日本は負けて……。大変ショックだった。

世界で唯一

2002年サッカーW杯、2019年ラグビーW杯、東京2020オリンピック(男子サッカー)がある。この世界3大スポーツイベントの「決勝」をやる会場は、世界で横浜が初めて。これが実現するのはすごいこと。

あと、世界陸上ができたから、さらにすごいね。来年5月には世界リレーもあって、これはアジアで初だね。

02 横浜国際プール

メインプールは、国内最大級の国際公認プール。冬季には床にパネルを組み立て、テニス・フットサル、バスケットボールなどさまざまな競技が行われている。メインプールの他、サブプール・トレーニングルーム・サブアリーナ・多目的ホール・会議室などを併設し、スポーツ活動の場として広く利用されているほか、市民の健康増進や体力づくり講座なども行われている。



パラ水泳選手 なりた ま ゆ み 成田 真由美

13歳で脊髄炎を発症、両下肢麻痺となる。23歳で水泳の楽しさに目覚める。パラリンピックでは5大会に出場し、多くのメダルを獲得、「水の女王」と呼ばれる。内閣総理大臣賜杯、内閣総理大臣顕彰、パラリンピックスポーツ大賞（最優秀女子選手賞）など数々の賞を受賞。

横浜国際プール20周年、おめでとーございます！

私の水泳人生が25年なので、ほぼ同じ時間を歩んできたんだと、感慨深いです。

光栄なことに、私は横浜国際プールのオープニングで、テープカットをさせていただきました。大きな小錦さんと一緒に。そして、小錦さんがいきなりプールに飛び込んで、ものすごい水しぶきが飛んで、大笑いしたことを覚えています。横浜国際プールでのスタートは、とても楽しいものでした。

そのせいか、私はこのプールでよくベストが出るので、とても相性のいいプールです。熱を出してフラフラの体調でも出たことがあります。リオデジャネイロパラリンピック前にもベストが出て、気持ちよく本番に向かうことができました。今年もなかなかいいタイムを残せました。勝手なもので「ベストが出たいいプール」なんですよ。だから、私にとって横浜国際プールは最高のプールです！

これからも多くの人に親しまれ、たくさんの記録と記憶が残るプールでありますように……。



冬季スポーツフロアの20年を振り返る



冬季スポーツフロアテニスコーチ

わたなべ いさお
渡辺 功
(写真中央)

(公財)日本テニス協会評議員／(公財)日本プロテニス協会副会長
1967年ユニバーシアード東京大会単金メダル、複銀メダル。元デビスカップ代表選手、代表コーチ。

わたなべ つとむ
渡辺 力
(写真右)

(公財)日本プロテニス協会評議員
プロテニスコーチの草分け。皇太子殿下、秋篠宮殿下をレッスンし好評を得る。

インタビュー：黒岩 司（(公財)横浜市体育協会）

■冬季スポーツフロアの開設

黒岩…プールの上に床を作るのが大変でした。やぐらを組み、3,000枚以上のパネルを敷き詰め、専用ロールマットを載せました。設置作業は熱意を持った方々に関わっていただきました。功…以前、床下を見せてもらいましたが素晴らしかったです。設置した方の努力を感じました。

力…テニス教室は、最初冬季のインドアのみでスタートしましたが、生徒さんから「夏も続けたい」との意見をいただき、当時の館長と黒岩さんに、屋外の駐車場を多目的コート（テニス・フットサル、駐車場）にする提案をしていただきました。

功…当時の基礎工事がきちんとしていたので、コートは現在もそのまま維持できています。

力…開設時から20年間教室を続けていらっしゃる方もいます。嬉しいことです。

■スポーツ大会・イベントの誘致

黒岩…開設当初は、スポーツフロアのイベントを誘致するのが大変でしたが、お2人のおかげで大会を開催することができました。功…テニスの実業団による日本最高峰の団体戦「日本リーグ」や、男子の国別対抗戦「デビスカップ」、ジュニア発掘キャラバン「ニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバン」、また松岡修造さんのジュニアキャンプ「修造チャレンジ」も開催しました。

力…近隣の幼稚園、小学校の運動会でも使用していますね。功…いろいろな地域活動で使っていたのは貴重ですね。

黒岩…テニス専用のマットを新たに設置する時、松岡修造さんと功先生が試し打ちをしてくれました。またもう一度大きな大会をやりたいですね。

■市民が集まる魅力ある施設

功…スポーツは健康に良いということを、東京2020オリンピックで知っていただきたいですね。スポーツを愛する「スポーツマインド」を育てることが重要だと思います。

力…違うスポーツにチャレンジするきっかけにも良い機会です。功…この施設がいつでも何かできることがある玉手箱みたいになると面白いですね。日本のスポーツは、形にこだわって気軽に参加しづらい。外国のリゾートのように、気軽にスポーツに触れる環境があるといいですね。

力…ここにくれば、何か面白いことができる雰囲気があれば、人が自然に集まってくる。

功…力先生が以前、このフロアでフットボール教室を開きました。スポーツだけにこだわらず、コラボすることで発展していきます。子どもたちが大人になってもここを利用してもらえるように、魅力ある施設になるといいですね。



03 横浜市スポーツ医科学センター

横浜唯一のスポーツ医科学拠点施設として、スポーツ医科学に基づいた市民の健康づくりの推進とトップアスリートの競技力向上、さらにスポーツ振興を目的として、クリニック(内科(循環器)、整形外科(スポーツ整形)、リハビリテーション科)、アリーナ、研修室、25mプール、トレーニングルームなど備えている。



横浜市スポーツ医科学センター センター長
あおき はるひと
青木 治人

東京慈恵会医科大学医学部卒業後、東京慈恵会医科大学整形外科、聖マリアンナ医科大学附属病院病院長、聖マリアンナ医科大学学長を歴任して、平成23年4月に横浜市スポーツ医科学センター長に就任。
日本整形外科スポーツ医学会理事、日本臨床スポーツ医学会理事。

横浜市スポーツ医科学センターが20周年を迎えて

横浜市スポーツ医科学センターは、市民の健康作りの推進と競技力の向上、スポーツ活動の振興を図るために平成10年4月に開設され、以来、今日に至るまで市民の皆さまのご理解とご支援をいただき発展してまいりました。

当センターは、スポーツによる怪我や疾病の治療、スポーツ活動を始める前に欠かせない健康チェック、そしてさまざまな運動器障害(腰痛や膝痛)を改善するための医学的運動療法のコースなどを提供すると同時に、研究面では、一般市民の健康とスポーツとの関係、特に生活習慣病予防策としてのスポーツ、あるいは健康寿命に関係する運動器の機能とスポーツ活動などのテーマを主として研究してまいりました。

外部団体、組織との連携について申し上げますと、横浜市に本拠地を構えているプロスポーツチームの選手たちの健康管理、そして市内の中学、高校での部活動の際の出張相談なども行っています。

また近年では、健康者の方々に対してのみならず、障害のある選手の方々の競技活動への支援も行っています。

わが国では2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック、パラリンピック、と大きなスポーツイベントが続きます。横浜市はその重要な競技開催地でもあり、スポーツへの関心はますます高まるでしょう。

スポーツの発展には、医科学の関与が欠かせません。当センターはこれらも、医科学の分野からスポーツの発展に寄与していきたいと考えています。

20周年おめでとうございます。

大きなスランプから逃げるように競技から離れていましたが、「このままでは後悔する」と、年齢的に最後のタイミングで出会ったのが、開設当初の医科学センターでした。

多種目のトップアスリートが測定、あるいは診察やリハビリに来ていて、いろいろな思いを持ちながら、きついトレーニングをしていた日々が懐かしいです。

私自身もう一度優勝することは叶いませんでしたが、測定後メニューを組んだトレーニング、理学療法士とのリハビリなど、科学的根拠に基づいた身体作りのおかげで、シニアになるまで大きな故障もなく続けられたことに感謝しています。



プロゴルファー
おだ みき
小田 美岐

1982年プロテスト合格。1983年日本プロスポーツ新人賞受賞。1984年美津濃ゴルフトーナメントで初優勝。女子ツアー通算6勝。現在は、テレビ解説やゴルフの普及活動など、各方面で活躍中。

当時、フランスで開催されている「ル・マン24時間耐久レース」という自動車レースに挑戦するために、スポーツ医科学センターに通っていました。

クルマを運転しているだけに見られがちですが、最高速度340km/hのスピードで24時間レースを戦うには、かなり強いカラダが求められます。そこで、通える時は、ほぼ毎日のように医科学センターに通い、レーシングドライバーに適したプログラムでトレーニングを続けました。



この結果、2004年のレースで総合優勝を掴む事ができました。サポートしてくれた医科学センターのスタッフには、本当に感謝しています。



レーシングドライバー
あら せいじ
荒 聖治

1994年レースデビュー。その年のフォルクスワーゲンカップ ゴルフクラスでルーキーながらシリーズチャンピオンを獲得。その後、数々のレースで活躍。2004年ル・マン24時間耐久レースでは、日本人2人目の総合優勝を飾る。